

(紫斑病性腎炎, 腸出血, 腸重積, 腸管穿孔, 脳出血) をみる。成人例では腎不全に至るリスクが高く, 注意を要する。

### 3. 蕁麻疹様血管炎 urticarial vasculitis

24時間以上持続する蕁麻疹様皮疹をみた場合は本症を疑う。蕁麻疹様あるいは多形紅斑様の皮疹を繰り返し, 紫斑や色素沈着を伴う (図 11.6)。病理組織学的には真皮上層に白血球破碎性血管炎の像を認める。本症は特発性のものと, 基礎疾患 (とくに SLE) を有するものがある。多くは低補体血症を伴い [低補体血症性蕁麻疹様血管炎 (hypocomplementemic urticarial vasculitis)], 関節痛や腹痛, 腎症などの他臓器症状を呈する場合もある。

### 4. 持久性隆起性紅斑 erythema elevatum diutinum ; EED

中年以降の男女に好発し, 肘や膝などの関節伸側に対称性に出現する。最初は軽度隆起した赤紫色の局面であるが, 次第に線維化をきたしケロイド状となる。まれに水疱や潰瘍を形成することもある (図 11.7)。関節炎を伴うこともある。病理組織学的に白血球破碎性血管炎がみられる。自覚症状はほとんどなく慢性に経過する。血液疾患 (とくに単クローン性 IgA 血症) などを合併することがある。治療は DDS が有効である。

### 5. 顔面肉芽腫 <sup>にくげ</sup> granuloma faciale

顔面に境界明瞭な紅褐色の局面や小結節を呈する (図 11.8)。日光曝露が関与するとされるが原因不明である。病理組織学的に肉芽腫はみられず, 白血球破碎性血管炎の像を呈する。色素レーザー療法, ステロイド局所注射や DDS などが行われるが治療抵抗性である。

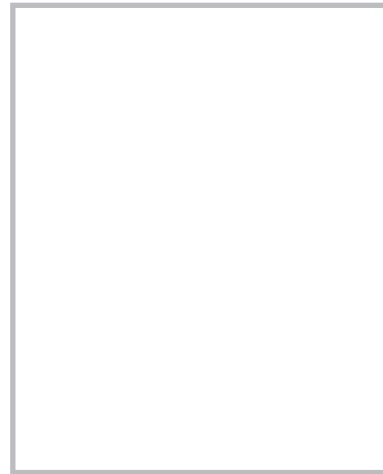


図 11.4② IgA 血管炎 (IgA vasculitis)

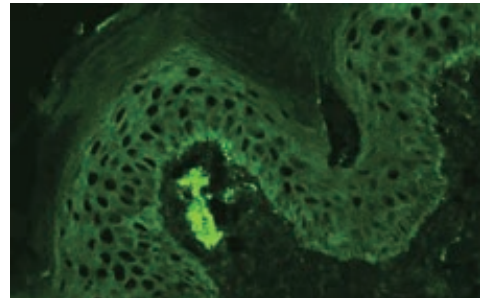


図 11.5 IgA 血管炎の蛍光抗体直接法  
病変部の真皮上層の血管壁に IgA が沈着している。



図 11.6 蕁麻疹様血管炎 (urticarial vasculitis)  
紫斑を伴う紅斑が多発しており, 膨疹を伴っている。

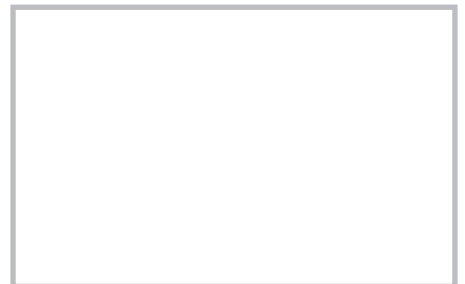


図 11.8 顔面肉芽腫 (granuloma faciale)